

三浦由真子 学位論文審査要旨

主 査 畠 義 郎
副主査 中 島 健 二
同 浦 上 克 哉

主論文

Autoantibodies to GM1 and GQ1b α are not biological markers of Alzheimer's disease

(GM1及びGQ1b α に対する自己抗体はアルツハイマー病の生物学的マーカーではない)

(著者：三浦由真子、宮地一樹、Yuek Ling Chai、Christopher L.H. Chen、

Mitchell K.P. Lai、結城伸泰)

平成26年 Journal of Alzheimer's Disease 42巻 1165頁～1169頁

参考論文

1. Biomarkers of 'acute-onset' chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy

(急性発症の慢性炎症性脱髄性多発神経炎のバイオマーカー)

(著者：三浦由真子、Nortina Shahrizaila、結城伸泰)

平成26年 Brain DOI:10.1093/brain/awu252 2pages

審 査 結 果 の 要 旨

抗ガングリオシド自己抗体はギラン・バレー症候群や多巣性運動ニューロパチーのバイオマーカーとして知られているが、アルツハイマー病のバイオマーカーである可能性も指摘されている。本研究では、アルツハイマー病、脳血管性認知症、ギラン・バレー症候群及び多巣性運動ニューロパチーの血清を用いて抗ガングリオシド抗体の測定を行った。その結果、アルツハイマー病及び脳血管性認知症において抗ガングリオシド抗体は関連していないことを確認した。本論文の内容は、抗ガングリオシド自己抗体がアルツハイマー病のバイオマーカーとならないことを示したものであり、臨床神経科学の分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。